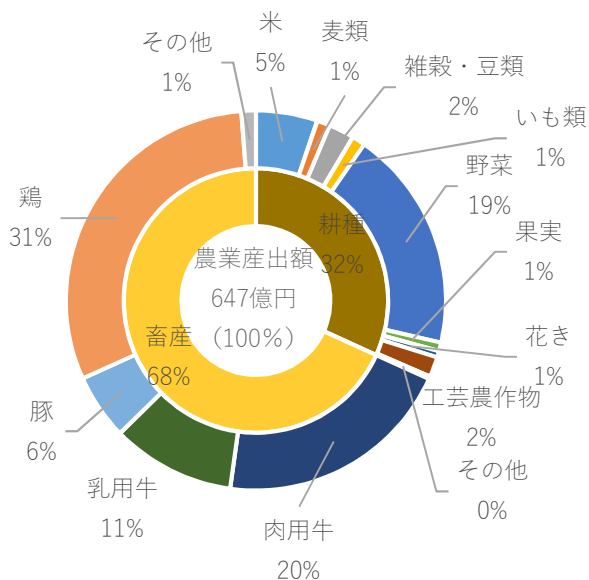


◎全道農業における胆振のシェア

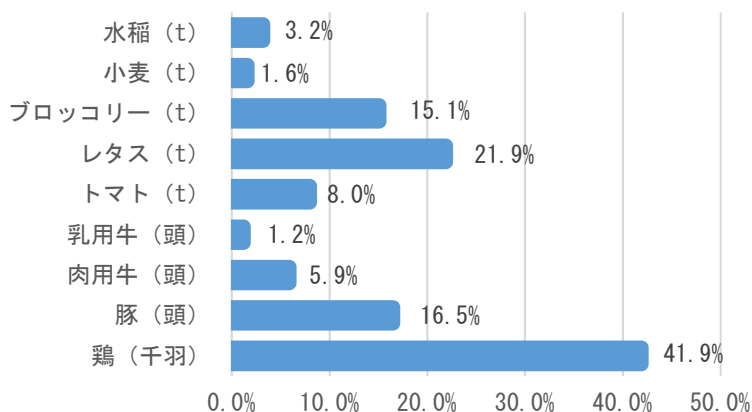
全道の農業産出額のうち、胆振の割合は概ね5%前後です。作物別収穫量等を見ると、水稻や小麦に比べ、レタスなど野菜のシェアが大きいといった特徴があります。

項目	胆振管内	全道	全道比
農業算出額(億円)	647	13,108	4.9%
販売農家数(世帯)	1,652	34,913	4.7%
耕地面積	34,097	1,141,000	3.0%
田(ha)	9,347	221,600	4.2%
畑(ha)	24,776	919,900	2.7%
収穫量			
水稻(t)	17,698	553,200	3.2%
小麦(t)	9,631	614,200	1.6%
ブロッコリー(t)	3,374	22,652	15.1%
レタス(t)	2,190	10,008	21.9%
トマト(t)	4,121	51,197	8.0%
飼養頭数			
乳用牛(頭)	8,554	739,838	1.2%
肉用牛(頭)	35,242	598,623	5.9%
豚(頭)	113,324	685,108	16.5%
鶏(千羽)	5,408	12,918	41.9%



※1 農業産出額:令和3年市町村別農業産出額(農林水産省)、
販売農家数:2020年農林業センサス、
耕地面積、水稻及び小麦収穫量:令和4年度作物統計
それ以外は令和3年度北海道農政部調べ

作物別収穫量等の北海道内における胆振のシェア

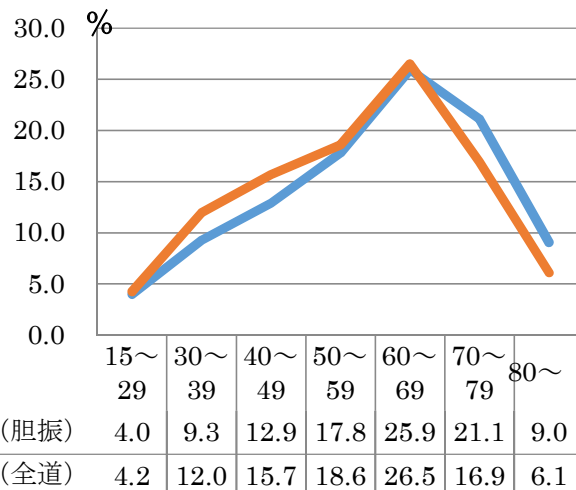


◎胆振の農業就業人口

農業就業人口を年齢構成別に見ると、全道と胆振のピークは60歳代で同じだが、70歳以上の構成率が全道平均を上回っており高齢化が進行。(2020年農林業センサス)

年齢	胆振(人)	全道(人)	構成率(胆振)	構成率(全道)
15~29	147	3,636	4.0	4.2
30~39	343	10,242	9.3	12.0
40~49	475	13,423	12.9	15.7
50~59	658	15,937	17.8	18.6
60~69	959	22,696	25.9	26.5
70~79	781	14,494	21.1	16.9
80~	334	5,237	9.0	6.1
計	3,697	85,665	100.0	100.0

農業就業人口(年齢別構成率)



◎農業農村整備事業の実施状況

令和5年度の農業農村整備事業予算は、道営事業が13地区1,683百万円（内518百万円がR4補正予算）、団体営事業が10地区318百万円の計23地区2,001百万円を執行予定です。

水田の整備は、厚真町を中心に展開しており、ほ場の大区画化とともに用排水・農道等の一体的な整備を実施し、農地の集積・担い手育成を促進しています。畑地の整備は、豊浦町、洞爺湖町において畑地かんがい、区画整理を中心とした事業を実施しています。その他、用水路、農道の保全や農地等の保安全管理として海岸保全等を実施しています。

【道営事業の内訳】

事業区分	主な事業内容	R5予算（百万円）
農業生産基盤整備	水田・畑地の整備、用排水の整備	1,313
農村整備	農道の整備	8
農地等保安全管理	海岸保全、防災減災	362
合計		1,683

【道営農地整備事業 1区上流地区（厚真町）の事例】

※左側が事業実施前の状況。右側が実施後における大区画化された農地。大型機械による作業効率の向上や営農労力の節減を図る。

【事業実施前】



【事業実施後】



◎日本型直接支払制度（多面的機能支払（農地維持支払・資源向上支払）） （愛称：とんぼの未来・北の里づくり）の実施状況

平成26年度より農業農村の持つ多面的機能の発揮に対して日本型直接支払（多面的機能支払）が創設され、集落コミュニティの共同管理等によって農地が維持され、将来にわたって多面的機能が十分に発揮されるとともに、規模拡大に取り組む担い手の負担を軽減し、構造改革を後押しします。

令和5年4月現在、管内2市6町で33の活動組織が当該制度に取り組む予定で、対象農用地は農地維持支払において、21,005haを想定しています。

☞主な実践活動

＜植栽活動＞



＜農地法面の草刈り＞



＜水路の泥上げ＞



＜水路のひび割れ補修＞



☞制度のポイント

農地維持支払は、

- ① 農業者のみの活動組織でも OK
- ② 農業生産を営むために不可欠な基礎的活動を支援

☞交付単価（単位：円/10a）

農地維持支払		資源向上支払
田	2,300	1,920
畑	1,000	480
草地	130	120

